

PhD 躍動メディカルサイエンス人材養成

(実施期間：平成 20～24 年度)

実施機関： 慶應義塾大学（代表者：清家 篤）

課題の概要

優秀な PhD 人材が躍動する社会を日本に構築するため、本学の医科学研究領域における産学協働「リサーチパーク」を最大限に活用して新たな人材養成システムを実施する。キャリアディベロップメントセンター「MEBIOS (Medical Biologist Support)」を新設し、企業経営経験を持つ者をメンターとして採用し、会社社長・会長クラスのアドバイザリーボードを置く。実践プログラムでは、メンター制度によるサポートの下、MBA・知的財産管理・創薬開発などの学内教育研究リソースを活用した講習や、企業における長期的取り組みを行い、実践プログラム終了後にスムーズに企業等へ就職する流れを作り、社会とアカデミアの人材循環システムを構築する。

(1) 総合評価（所期の計画と同等の取組が行われている）

学位取得後の活躍の場が未開発であるメディカルサイエンス分野を対象として、学内組織として MEBIOS を立ち上げ、メディカルサイエンス系の人材養成を推進する機能を持つ組織としての活動が軌道に乗っている点は評価できる。しかし、関係者の意識改革への努力はうかがえるが養成を希望する者が少ないなど、ポストドクター自身の将来に対する危機感、博士課程学生の認識は十分とはいえない。今後は、学生や企業の理解を一層深める効果的な対策など、より積極的に組織の運営を行い、事業期間終了後も、明確な計画に基づいて実行力をもって継続することを期待する。

<総合評価：A>

(2) 個別評価

①目標達成度

メディカルサイエンス系ポストドクター・博士課程学生のイノベーション創出人材養成に関する取組を進めるとともに、初年度は計画どおりの養成者の確保やシステム構築の進捗ができなかったものの、年度進行に伴い連携企業開拓が進み、養成者の人数が増加している3年目においては、ほぼ計画どおりに進捗しつつあり、基盤となるシステムの構築が果たしていると評価できる。今後は、多くの応募者を確保することができるよう、関係者全体への意識改革等に向けた更なる取組を期待する。

②イノベーション人材養成システム改革

メンターによるきめ細かい指導体制の構築や企業との連携の推進により、養成者の社会進出を支援しており、一定のシステム改革が進んでいると評価できる。また、教員の意識改革では、個人レベルでの説明を積み重ねていることや、研究と人材養成を担う2名の教授職を医学部共同利用研究室に配置していることにより、効果を上げている。今後は、更なる教員の意識改革の方策を打ち出した上で実施し、また、ポストドクター・博士課程学生の各々に応じた指導体制の構築を企業との協働の中で進めること等により、本取組に対する企業の参画と博士人材への理解が促進するよう更なる努力を期待する。

③実践プログラムの開発・運用状況

実践プログラムは計画どおり開発・運用されており、各養成者に応じた丁寧なメンターの指導は、ポストドクターや博士課程学生の意識改革に効果的であり評価できる。ただし、博士後期課程進学時に「イノベーション志向」の強い学生を選抜することにより、他方で「アカデミア志向」の進学者が減ることにつながるおそれもあるため、個別対応の有効性も重視しつつも、バランスの取れた実践プログラムの体系化を進めることに留意が必要である。また、今後も企業の人材受入態勢、人材ニーズ等の把握に努め、より実効性の高い実践プログラムとなることを期待する。

④実施体制

企業事情に明るいメンターの活用、キャリアカウンセラーの民間からの登用や幅広い分野の企業と連携した取組は他大学のモデルにもなることが期待され、有効に機能する体制構築が図られていることは評価できる。また、教員個人への説明などにより、意識改革を促す活動を実施していることも評価できる。

⑤今後の進め方

人材養成に当たってはメンターの能力に頼る部分が大いだが、協力企業との連携等により効果的に実行される計画となっている点が評価でき、引き続きシステム改革を進め、本事業への応募者数の増加など、他部局への広がりをもつことを期待する。今後の全学的展開に向けた具体的な検討を期待する。

⑥実施期間終了後における取組の継続性・発展性

企業からのメンター派遣、専任教職員の兼務化等、今後の継続が期待できる計画となっている。しかし、ポストドクターの件数や事業の鍵となるメンター等の確保については、将来の資金計画の展望が明確ではないので、継続性を担保できる計画の策定が必要である。また、本取組の全学展開や実践プログラムの単位化に関しても、将来像の一層の明確化を行い、実施期間終了後の発展に対応可能なシステム構築を図ることが必要である。

(3) 評価結果

総合評価	目標達成度	イノベーション人材養成システム改革	実践プログラムの開発・運用状況	実施体制	今後の進め方	実施期間終了後における取組の継続性・発展性
A	a	a	a	a	a	b